

地震後 15分で全員の無事を確認する

ホテルパールシティ神戸

1 地震発生時の対応

ホテルには63名（前日は200名）が9階より上層の階の客室に宿泊していた。また、ホテルの総支配人（ナイトマネージャー）が15階の客室で仮眠しており、フロントに従業員が2名、防災センターに警備員1名が勤務していた。

総支配人は地震の揺れによりベッドから放り出された。揺れの最中に「避難誘導の必要」を感じフロントに内線電話した。揺れがおさまった後、総支配人は懐中電灯、ラジオ、携帯電話を探し、非常階段を通過して1階ロビーに直行、約10分後に到着した。総支配人の指示により、警備員を始め4名の当直員は館内の火災の確認を行って異常が無いことを確認した。各客室のドアのうちには開放不能のものが数カ所あったが、幸いにもその部屋の宿泊は無かった。

従業員は当日の午前8時に島内に住んでいる者から随時出勤し、最終的には当日16名となり、宿泊客への対応と施設の被害状況の確認を行った。

自家発電設備は、地震後直ちに起動し、午前8時30分の復電時に停止した。この時を利用し炊飯しておにぎりを作った。その後再び停電し、午後1時の復電まで運転し続けた。

2 避難誘導の状況

地震後、警備員は直ちに非常放送により「只今、地震が発生しました。係員が誘導しますので、落ちついて避難して下さい。」との内容の館内放送を実施した。そして宿泊客は自発的に屋外避難階段を利用して避難しており、総支配人が1階ロビーに到着する頃には大部分の宿泊客が避難して来ていた。従業員が1階ロビーで人員確認を実施し、全員の無事を確認したのは、地震から15分くらい経過してからであった。

宿泊客への情報提供は非常放送を利用してラジオの情報を流し、復電後はテレビで状況を把握した。また、神戸大橋、交通機関の情報も伝えた。当日は4～5名が徒歩で島外へ出たほかは、全員が1階ロビー等と2階の宴会場で宿泊したが、これらの階は電気暖房のために寒さに対しての問題は無かった。ホテルでは島内3か所のホテルの合同で、海上アクセスに対して客の輸送を依頼し、宿泊客は翌日の午前11時にジェットホイルにより関西国際空港へ向かった。

3 教訓

- (1) 窓ガラスのうち、はめごろしのガラスのみ破損していた。
- (2) テレビ、冷蔵庫、ランプの転倒が多数あり、固定の必要がある。